

# 令和元年度収蔵品（漆工品）緊急クリーニング業務報告

安里成哉<sup>1</sup>、土井菜々子<sup>2</sup>、當間 巧<sup>3</sup>

## 1. はじめに

本稿は、2019年10月31日未明の首里城火災により被災した展示品ならびに収蔵品のうち、南殿展示室、寄満特別収蔵庫等にあった漆工品の緊急クリーニングについて報告するものである。

なお、漆工品の緊急クリーニング作業は、沖縄県立博物館・美術館修理修復室内の琉球漆工藝舎にて行われた。クリーニングにあたっては、安里成哉を担当職員とし、土井菜々子をクリーニングの責任者兼作業担当者、當間巧を作業担当者とした。

## 2. 名称

No. 195 朱緑漆楼閣山水人物箔絵提重

No. 514 朱緑漆山水楼閣人物箔絵提重

No. 788 黒蠟塗打刀拵

[琉球楽器]

- ・ 三線
- ・ 胡琴
- ・ 横笛

## 3. 現状

No. 195 朱緑漆楼閣山水人物箔絵提重

No. 514 朱緑漆山水楼閣人物箔絵提重

塗膜全面にススが被っており、黒ずみ、さらにヤニも付着している。外枠の天板、重箱の蓋、上段に納める入角皿の上面、錫瓶を立てる箱の上面に特に多く付着し、絵柄が見えないほどである。

No. 788 黒蠟塗打刀拵

塗膜全面にススを被り、灰色になっている。漆塗りの鞘は劣化が進んでおり、漆特有の経年劣化により明るくなる色の変化が見られる。栗形の周辺から鑑に向かって灰色のマダラ模様にもススが被る。その途中に長さ10センチほどの漆塗膜亀裂が入り、木地が露出している。その亀裂

---

<sup>1</sup> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室 琉球文化財研究係 主任

<sup>2</sup> 琉球漆工藝舎 代表

<sup>3</sup> 石川堂 表具師

部周辺には、細かな塗膜剥離が見られる。絹糸で組まれた下緒、柄巻きはススと共に湿気を含んでいる。

#### [琉球楽器 3 点]

- ・三線

上面に多くススが被っている。弦、房紐などはススが繊維に絡みついている。竿に使われる黒檀に細かい亀裂が複数見られる。胴の加飾に使われる鼈甲はわずかに変形している。

- ・胡琴

上面に多くススが被っている。弦、房紐、胴の加飾に使われる皮などは、ススが繊維に絡みついている。

- ・横笛

上面に多くススが被っている。房紐、巻糸と金箔で加飾された部分に、ススが絡みついている。水牛の角で作られた管頭および管尾には、亀裂が見られる。

#### 4. 修理方針

今回は、緊急処置的に、可能な範囲でススおよびヤニの除去を行う。写真撮影を伴ったクリーニングの記録を取り、作業後と比較できるようにする。クリーニング完了後は、報告書を作成し、提出する。

#### 5. 修理作業

No. 195 朱 緑漆楼閣出本人物描絵提重

No. 514 朱 緑漆出水楼閣人物箔絵提重

わずかに水分を吹きませた本綿布で表面のススを拭き取った後、消毒用アルコールを含ませた木綿布を用いてススの絡んだヤニを拭き取った。凹凸の強い加飾部分や角部は、綿棒などを用いて除去を行った。

付着したススは、ヤニを含んでいるため吸着が強く、払いおとすことはできない。ヤニの除去は、消毒用エタノールから使いはじめ、強く付着する箇所については、無水アルコールを使用した。

提重は加飾が箔絵のため、強くこすらないよう注意を払った。漆塗膜の劣化が進んでいるため、完全にススを取り除くことは難しい。今回は、ヤニが比較的除去しやすいうちに可能な範囲での除去を行ったが、塗膜を構強する漆固めを行うことが望ましい。

No. 195 朱緑漆楼閣山水人物箔絵提重の錫瓶を立てる箱の上面は、箔絵の黄色下付漆が剥離しており、拭上げると剥がれることがわかったため、途中で作業を止め、担当学芸員と協議した結果、現状のままとする事とした。

※11月1日に緊急で博物館に運ばれてきた際は、ヤニによる器物と器物の接着を避けるために、全て分解して並べた。特に錫瓶を立てる箱は、ヤニにより枠に強く張り付いていたため、慎重に外し、塗膜剥離等が無いことを確認した。

#### No. 788 黒蠟塗打刀拵

わずかに水分を吹くませた木綿布で表面のススを拭き取った後、消毒用アルコールを含ませた木綿布を用いてススの絡んだヤニを拭き取った。凹凸の強い加飾部分や角部は、綿棒などを用いて除去を行った。塗膜劣化が進んでいるため、基本的には消毒用エタノールを用いたが、強く付着する箇所については、無水アルコールを使用した。漆塗膜の亀裂周辺に見られる塗膜剥離部分には、今後の剥落を避けるため、和紙とでんぷん糊による仮止めを施した。柄部分は、柄巻きをほどいて、鮫皮部分のクリーニングを行った。そのため、菱紙および目貫を外して、別途保存した。

※11月1日に緊急で博物館に運ばれてきた際は、水分を含んだ下緒が漆塗膜に触れて変色することを避けるため外すこととした。柄巻きも水分を含んでおり、カビの危険性を避けるため、紐をほどいて自然乾燥させた。紐類は現状のままとした。

※鞘はもともと外れない。

#### 6. 所見

全6点に見られることであるが、塗膜の劣化が進んでいる。経年の劣化の症状として見られる木地亀裂、漆の色が明るくなり透けてくる症状等が確認される。

#### 7. 修理場所

沖縄県立博物館・美術館内修理修復室

#### 8. 修理期間

令和元年11月1日～令和2年3月8日

#### 9. 作業員

琉球漆工藝舎 土井 菜々子

石川堂 當間 巧



No.195 朱緑漆楼閣山水人物箔絵提重 クリーニング後



クリーニング前



クリーニング後



クリーニング前



クリーニング後



拭き上げ



錫瓶拭き上げ



No.514 朱緑漆山水樓閣人物箔絵提重 クリーニング後



クリーニング前



クリーニング後



クリーニング前



クリーニング後



拭き上げ



拭き上げ